

地域医療における整形外科

せんぽ東京高輪病院
副院長 整形外科部長
リハビリテーションセンター長

なか がわ たね ふみ
中川 種史



Contents

- 地域医療における整形外科
副院長 中川種史
- シリーズ病棟紹介
「ナースステーションから」
第9回 6階病棟
第10回 外来
第11回 内視鏡室
- 新任医師のご紹介
- NEWS & NEWS
第10回 地域医療懇話会・懇親会
のお知らせ
第2回 品川・高輪医療セミナー
開催のご報告
第1回 せんぽ医療感染予防講習
会 開催のご報告
- ホームページをリニューアル
しました

病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。

せんぽ東京高輪病院

人口構成の高齢化に伴って、地域医療における患者さんの多くは高齢者になってまいりました。人間の運動器はやはり機械的な運動を担当する以上、長期間にわたって使用してまいりますと変形を生じたり、疼痛を伴ったりいたします。多くの場合疾病ではなく、加齢に伴って発生してしまった障害であり、他の疾患の治療によらず発生してまいります。このような加齢性の変化においては、病気を治療するようにはいかず、疼痛をいかにコントロールし、その患者さんのQOLをいかに高く保つかがポイントとなると思っています。急性期で疼痛が強いときは病院での検査や、注射、時には手術を含む処置が必要となりますが、落ち着いた慢性期においては地域の先生方によって投薬や物療などを行っていただくのが患者さんにとってもお体の負担が少なく安心なものと存じております。もしかかりつけの患者さんが運動器の疼痛などで通院などに支障を生じ始めてまいりましたら、整形外科がお役に立てることも多いと存じます。

骨粗鬆症もここ10年ばかりクローズアップされております。厚生省のゴールドプランで骨折予防による医療費抑制効果のために取り上げられてから、一般的に知られるようになり、患者さんもこの病気に神経質になる方もいらっしゃいます。骨粗鬆症はそれ自体では特に害になることはなく、骨折のリスクが高まるだけありますので、状態の評価、進行の予防が主となります。評価については、採血や尿などで行うことができる指標もありますが、やはり主となるのはレントゲンでの骨萎縮、圧迫骨折の有無と骨密度検査であります。当院ではD X Aとよばれる2種類の波長のレントゲン波を使用した骨密度測定装置QDR4500を使用して

全身の骨密度を測定することが可能であります。WHOのガイドラインにおいてもこのD X Aによる腰椎の骨密度が診断の指標になっておりまして、これで若年者平均の70-80%で骨萎縮、70%以下で要治療とされております。ご要望に応じて当院の装置を利用して検査させていただきます。治療においては、運動、食事その他の日常生活の注意に加えて、投薬が中心になります。以前はビタミンDやカルシウムの投与が多く行われてきましたが、最近のガイドラインでは骨密度の減少状態に対する推奨度が高い薬剤として、ビスホスホン酸（アレンドロネート、リセドロネートなど）やラキシロフェンが挙げられております。それでも1年内服して数パーセントの骨密度増加効果ではありますので長い眼で見た治療が必要となります。地域の先生方における投薬の効果のフォローなどお申し付けいただければ幸いです。

当院整形外科は本年4月に3人転任の後4人赴任という大幅なメンバーの変更を伴いましたが1人増員と成り6人体制で治療を行っております。外来、入院ともできるだけやさしい診療を心がけており、急なご依頼にもできるだけ対応をいたしたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



骨密度撮影装置

シリーズ病棟紹介「ナースステーションから」

第9回 6階病棟



6階病棟

看護師 ^{ようおかくみ} 陽岡久美

1 6階病棟の特色、特徴

6階病棟は、4床室8室、個室8室の合計病床数40床の整形外科、耳鼻咽喉科を主とした混合病棟です。

スタッフは、看護師17名と看護助手2名の計19名で構成されています。勤務体制は2交代制となっており、固定チームナーシングを行い患者さまに責任を持って、継続した質の高い看護実践や看護スタッフの自己目標の実現や達成感を目指しています。

整形外科においては、高齢化に伴い70～90歳代の患者さまが多く、疾患は大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、変形性腰痛症などがあり、特に大腿骨頸部骨折は7月中において6階病棟入院患者全体の1/3を占めました。また当院の特徴として腕神経叢損傷や分娩麻痺の診療があります。この疾患は、学童期～青年期の患者さまが主で手術及びリハビリによる神経修復、機能再建を目的に治療を行っております。

6階病棟におけるこのような幅広い年代の患者さまに対し、個々の特性と回復過程をふまえ、医師及び理学・作業療法士と密接に連携をとりながら看護を行っております。

耳鼻咽喉科においては、扁桃炎、副鼻腔炎、慢性中耳炎などの疾患に対しての手術目的の患者さまが多く占めております。耳鼻咽喉科では診察時に特殊なユニットを用いて診察を行います。当病棟ではユニットを配備した専用の診察室を設置し、術後の診察に外来に降りることなく診察ができるようになっております。看護師は患者さまが安心して安楽に診察が受けられるよう診療の介助を行っています。

2 常に気をつけていること

患者さまに対し責任を持ち、看護を実践することで患者さまが安全安楽に入院生活を過ごせる様、努めています。

また症状の現れ方、訴え方が個別化、多様化している現在、看護支援をしていくには、患者さま、一人ひとりを支え、患者さまが必要とする看護を提供していけるようがんばっています。

3 伝えたいエピソード

今年99歳で骨折をされた患者さまが入院し手術を受けられ、術後のリハビリも積極的にがんばり経過がよく、1ヵ月後元気に100歳のお誕生日を迎えた日に退院されました。「100歳おめでとございます」の手紙を看護師が渡しましたところ、「これは表彰状です。家に飾っておきます」とおっしゃられて、とても喜んでいただきました。非常に感動的な出来事であり、良い思い出になっています。いつまでもお元気でいてください。

4 これは自慢できます

看護研究で、大腿骨骨折手術後に良肢位が保てない患者さまに対して旧外転枕に代わる新外転枕と、一緒に使えるパジャマを考案し作成しました。

この新外転枕は2006年5月号「月刊ナーシング」に掲載され、患者さまの安全、安楽の確保とともに業務改善にもつながり、私たち看護師の大きな励みとすることができました。

今後も患者さまの立場になり、看護師として自慢できることが多くなるよう日々励んでいきます。

シリーズ病棟紹介「ナースステーションから」

第10回 外来



外来

看護師 ^{あべそのみ} 阿部園美

1 外来の概要

外来看護師業務は、12の診療科診察介助、健診センター、内視鏡室、放射線科や採血室の各検査、夜間当直と多岐におよびます。師長をはじめ3名の主任、29名のスタッフおよび4名の助手は、みんなで声を掛け合い、助け合いながら毎日700～800名におよぶ外来患者様や100名以上の健診者の方々に対応しています

2 常に気をつけていること

まず第一に医療事故がおきないように、細心の注意を払っています。投薬や患者様の取り違えがないよう、確認を繰り返しています。

第二に待ち時間のストレスを少しでも緩和できるよう心がけています。急患が入ったり、じっくりお話が必要な場面があったりと、医療現場は予定通りにいかないのが常です。できるだけお待ちの方に現状をお伝えしたり、希望があればあと何番目かお答え

するようにしています。

第三に常に笑顔でいるようにしています。外来では患者さまと接する時間は限られています。ほんのひと言ふた言の会話の中に「よくなってもらいたい」という思いが伝わればと思っています。

3 これは自慢できます

外来スタッフは人生経験豊富な人がそろっています。仕事熱心な人、生活を大切にしている人、子育て真っ最中の人、趣味や教養を追究している人。みんな方向は違っても、毎日を一生涯懸命過ごしています。だから仕事やプライベートでつまずくことがあっても、スタッフと話をしていると元気をもらい、「また明日からがんばるぞー！」という気にさせられます。スタッフはみんな営業でない、本物の笑顔で働いています。

4 伝えたいエピソード

私は整形外科外来を担当していますが、時々手をきつく握られたり、抱きつかれたり、お尻を叩かれたりすることがあります。これは決してセクハラではありません。高齢のご婦人達です。耳や言葉が不自由なので「あなたの顔を見るとほっとする・いつもありがとう」という気持ちを、身体を使って表現してくれるのです。手やお尻は痛みますが、涙が出るほどうれしい痛みです。

5 これからの外来看護

医療技術が進歩し、化学療法、内視鏡検査、手術など今まで入院があたり前だった処置が外来で行われるようになりました。患者様の負担を考えればよいことですが、そこにはリスクが伴います。また最近はインフルエンザ、麻疹、結核再燃など感染症が猛威をふるい、従来の対応では追いつかなくなっています。外来看護師として常に新しい知識、技術を身につけ、患者さまにより良いサービスを提供していきたいと思っています。

シリーズ病棟紹介「ナースステーションから」

第11回 内視鏡室

看護師 ^{ひがしだ} 東田 ^{さかえ} 栄・^{もりしま} 森島 ^{かずえ} 和江

1 内視鏡室の概要

内視鏡室は消化器医師・呼吸器医師・専門看護師2名・看護助手1名と外来看護師の協力で成り立っています。

H18年度の検査件数は上部消化管約1900件、下部消化管約700件で、実施した項目は以下の通りです。

〈検査〉

上下部消化管の内視鏡：組織検査・ヘリコバクター・ピロリ菌
気管支鏡：組織検査・培養・細胞診・気管支肺胞洗浄・・・肺癌・肺結核の診断

〈消化器内視鏡的手術〉

内視鏡的止血術：消化管出血
内視鏡異物摘出術：食道、胃内異物
内視鏡的硬化療法：食道静脈瘤
内視鏡的静脈瘤結紮術：食道静脈瘤
内視鏡的粘膜切除術・ポリペクтомミー：胃癌・胃ポリープ・大腸癌・大腸ポリープ
経皮内視鏡的胃瘻造設術
内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）：胆石・胆管結石症・良性胆管狭窄症・膵癌

ERCPの手技を用いた治療：内視鏡的乳頭括約筋切開術

内視鏡的乳頭拡張術

内視鏡胆道（膵管）ドレナージ術

内視鏡的碎石術

2 常に心がけています

ほとんどの患者さまは緊張と不安で来院されます。私たち看護師は、患者さまが安心・安全に、検査・治療をうけていただけるように、心がけています。

看護師1人が患者1人に対して前処置から検査・検査後の説明までを一貫して受け持つようにしています。患者さまとの会話などから気持ちを受け止め、適切な助言・介助をして苦痛の緩和に努めています。患者様からは「思ったより楽にできた」「心強かった」と声がきかれ、嬉しく思っています。

最近の内視鏡技術や機器の発達は目覚しく、それと共に内視鏡室の看護師にも高い専門性が要求されます。私たちは内視鏡学会や技師研究会に積極的に参加して、知識・技術を修得し日々の業務に生かせるよう努力しております。

感染予防対策として日本消化器内視鏡技師会の洗浄・消毒ガイドラインに基づいた方法で、電子スコープの洗浄・消毒は1患者1消毒で感染防止に細心の注意をはらい、皆様に安心して検査・治療を受けていただけると自負しております。

3 今後の励みになりました

『患者が決めた！いい病院』の『いい医療機関ランキング』患者30万人アンケートで内視鏡部門で当院が9位にランキングされました。

患者さまのことを考えスタッフ一丸となって、やってきたことが評価されたと思います。とても嬉しく今後の励みになりました。

新任医師のご紹介

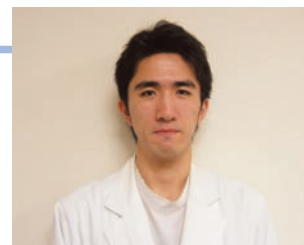
平成19年8月1日付



しのはら ちえ 篠原 千恵 脳神経外科部長



たばた りょうじ 田畑 龍治 麻酔科



ねもと まさる 根本 卓 外科



第10回 地域医療懇話会・懇親会のお知らせ

毎年11月に地域の先生方をお招きして開催しております地域医療懇話会の日程が、11月17日（土）に決定いたしました。今年は節目の10回目ということで、気持ちも新たに内容の充実した会が提供できるように企画する所存です。詳細につきましては9月中旬ごろに改めてお知らせいたします。各先生におかれましてはご多忙中と存じますがなにとぞご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。



第2回 品川・高輪医療セミナー
がん疼痛治療講習会 のご報告

7月6日（金）午後7時から、外来ホールにて開催されました。今回は、がん疼痛治療の最前線で幅広くご活躍されているらっしゃる聖路加国際病院緩和ケア科 林 章敏先生をお迎えして、緩和医療に関する知識の向上を目ざした会となりました。外部医療機関から9名の先生方にご出席いただき、当院スタッフ41名と併せて合計50名で行われました。

林先生からは、「緩和医療—その理想と実際—」という演題で、実例をあげて詳しくご講演いただきました。質疑応答の時間にもたくさんのご質問をいただき、それぞれに丁寧にご返答いただきました。

第3回の開催につきましても、決定次第ご案内しますので、よろしくお願いたします。



品川高輪セミナー

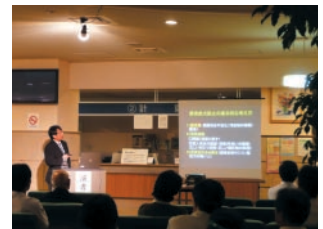


第1回 せんぽ医療感染予防講習会のご報告

7月20日（金）午後7時から、外来ホールにて開催されました。

港区医師会の後援をいただき、外部の先生は9名出席されました。当院からは61名のスタッフが出席しました。

医師会副会長の赤枝先生に座長をお願いし、「最近話題のウイルス疾患と院内感染対策」と題して、慈恵医科大学感染制御部 吉田正樹先生による講演を行いました。感染防止に関しては、予防が大切であり、医療機関の果たす役割がもっとも重要になってきます。感染予防講習会は継続して開催する予定になっていますので、今後ともご参加くださるよう、よろしくお願い申し上げます。



せんぽ感染予防講習会

ホームページをリニューアルしました

現在のWebサイトでは、使いやすさ（ユーザビリティ）、どのような環境の方でも容易にページを閲覧することができること（アクセシビリティ）が重視されています。当院のホームページもより多くの皆様にご覧いただけるようリニューアルすることにいたしました。

今回のリニューアルでは従来のメニューを整理し、必要な情報を検索しやすくいたしました。文字サイズを自由に変更することができ、目の不自由な方が使用する読み上げブラウザにも対応しております。また、新たに設置した携帯電話用サイトでは地図や電話番号なども確認することができます。

現行通り各種書類のダウンロードや、せんぽだより「うえーぶ」の閲覧も可能になっております。トップページでは「病院からのお知らせ」として、最新の情報を提供してまいります。

新しくなったホームページをぜひご覧ください。

アクセスは

<http://www.sempos.or.jp/Tokyo/>

または「せんぽ」で検索してください。



編集後記

この号がお手元に届く頃は暑さも一段落していることと思います。梅雨明けに堰を切ったような熱波の襲来で、猛暑日の毎日が続きました。先生方はいかがお過ごしでしたでしょうか。平成17年4月に地域医療連絡室の広報誌として発行した「うえーぶ」も号を重ねて今回で15号を数えることとなりました。当初の目的である病院の紹介及び地域医療連携への取組みにつきましては、ある程度地域の皆様にお伝えできたのではないかと考えております。次号からは誌面を一新し、情報の発信元として「うえーぶ」をお届けできるよう考えております。引き続きのご愛読をよろしくお願い申し上げます。